



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 観光の取組み
- 3 観光の取組み
- 4 観光の取組み【答弁】
- 5 観光の取組み【再質問】
- 6 観光の取組み【再答弁】
- 7 防災・減災の取組み
- 8 防災・減災の取組み【答弁】
- 9 次世代の育成
- 10 次世代の育成【答弁】
- 11 次世代の育成【再質再答】

皆さんおはようございます。

八幡みどりの市民の鷹野雅生です。

今回、一番で質問をさせていただき大変光栄に思っています。

それでは通告に従い、質問をさせていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと思います。願っております。

見たくなる八幡
来たくなる八幡
住みたくなる八幡！

観光の取り組み

1つ目の大きな柱は、観光の取り組みについてお伺いします。

私は以前、背割り堤での七夕まつりについて理事者のお考えをお伺いいたしましたが、今日は私がここ何年か考えてきたことで、ようやく自信を持ってお話、かつ理事者のお考えをお伺いしたいことがございます。

私はかねてより**見たくなる八幡、来たくなる八幡、住みたくなる八幡**をスローガンと致しておりますが、何もしなければ実現いたしません。

各自治体も活性化と観光客の誘致を目指してしのぎを削っている時代です。

今、この時代だからこそ行政も民間企業のセールスマンの意気込みで積極的に行動を展開しなくてはなりません。

お隣の宇治市は平等院や源氏物語があるにしても、1,500万人の観光客が訪れています。

わが八幡には三大勅祭の石清水八幡宮を筆頭に松花堂庭園やエジソンなど負けないものが沢山あります。

それらを連携させ、観光客の誘致を図ろうと提案してまいりました。

八幡の玄関口、京阪八幡市駅に観光案内所も設置していただき、動き出しています。

そこに置かれている八幡市関連のチラシやパンフレットを見て非常に気になることがございます。

カラー刷りの豪華な案内パンフレット、くつろぎと感動をあなたに、ゆっくりのんびり八幡の里

「ぶらりロマンコース」には小さな写真があるだけで、スペースが大きくとられていません。

「八幡まるごと味わい巡り」では地図に表示はありますが、写真はありません。サイクリングコースを紹介する「八幡秋号」にも、もちろんありません。東高野街道散策地図には表示すらありません。

私は最近になって八幡の大切にすべき観光地、時代のニーズに合った観光地、八幡市の宝となるべき観光スポットがあると思います。

そこは、【背割り堤】です。

もちろん、春の桜シーズンは賑わいます。

近年桜の名所としてメディアにもしばしば取り上げられるようになってまいりました。

背割り堤を桜のシーズンだけではなく年間を通して健康と出会い、ふれあいのある安らぎのスポットとして位置づけ、それに見合った広報活動を展開すべきだと考えています。

背割り堤は身近な存在であるためにその良さに気付いていないのかもしれませんが。

京都の良さに気付いたのがノーベル文学賞の川端康成や京都人以外の人だったように。日本の素晴らしさに外人が驚いたのと通じるかもしれません。

四季を通じて背割り堤を見てみますと、

春の桜満開の背割り堤の見事な美しさは最高ですが、^{のち}後に訪れる新緑の季節、緑になりきらない黄色に近い若葉の輝きは目にも眩しく見事としか言いようがありません。

夏の桜も迫力満点です。堤全体が緑で覆われ緑陰が木津川、宇治川の風に揺れて心地よい散歩道となります。

秋の桜も風情があります。少し色づいた葉、まだ緑も多いと見上げる桜の下には一面の枯葉は敷かれていますその上を歩く贅沢は他では味わえません。

冬の桜も見事です。一本一本が他所の桜並木にはない巨木揃いですから一本一本の存在が芸術作品です。ところどころに、えのきの巨木やハナミズキもありますがあれほどまでの桜の巨木にまで育ててくれた八幡市に先人に感謝せずにはおられません。背割り堤ほど桜の美しい堤防は京都府のどこにもないと思います。

桜の美しさは春だけではないと感じる豊かな感性をあの背割り堤で養っていただきたいのです。

背割り堤は、桜だけではなく河川敷にはヨシなどが茂り、野鳥や昆虫が多くみられるなど都市近郊では貴重な自然の宝庫です。

高齢化社会、長寿社会は健康と人同士がふれあい、絆を求めあう時代です。それにふさわしい場所をどの自治体も探していると思いますが、幸いにもわが八幡市には背割り堤という最高の舞台、最高のスポットが存在することを改めて認識し、多面的な展開を図っていただきたいと考えているところです。

そこでお伺いいたします。

【質問】

・背割り堤について市はどう位置づけられておるのか基本的な考えをお聞かせ下さい。

・七夕まつりの成果と課題をお聞かせ下さい。

・観光案内所のチラシやパンフレットに桜以外の背割り堤のPRは出来ないのでしょうか？

観光資源としてもっとアピールしてみたいはいかがでしょうか？

・サービスセンターが作られると聞きましたがどのような機能を持っているのですか？

地元の意見が反映されるのでしょうか？

・三川合流部周辺の施設の整備について淀川船運整備はどこまで進んでいますか？

トイレや船着き場の整備などの進捗状況はいかがですか？

・背割り堤を、人と人との絆を深める場所とすることはいかがですか？

・淀川河川事務所が実施された社会実験と八幡市との関係はどのようになっているのですか？

その結果、どのように活用されているのですか？

*** 背割り堤の位置付け**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒木津川、宇治川、桂川の3つの河川が合流する背割り堤周辺は雄大な自然環境を有するのみならずそれぞれの河川上流には平城京、木津京、平安京そして三川合流域には長岡京、淀川下流には難波宮がさかえるなど悠久の歴史に裏打ちされた文化の結節点でもあります。この環境を活かした人々のリフレッシュ空間として人々のにぎわいある交流拠点として位置づけているところでございます。

*** セタまつりの成果と課題**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒セタまつりを実施するにあたって大型笹飾りの作成や竹の切り出しに協力をいただいた地元NPOまた、淀川三川合流域地域づくり協議会を構成する国土交通省や京都府、周辺市町。工場見学や積極的な開催PRを頂いた企業や交通機関、キャラクターショーなどのイベント数も増え、来場者も増加してくるなど背割り堤の魅力を内外に広く発信することが出来たことが成果であったと考えております。
今後の課題につきましては開催規模に見合った継続的かつ安定的な財源の確保と更なる集客数の増加を見込める会場運営方法の確立が課題であると考えております。

*** 観光案内所での背割り堤 桜以外のPR**

環境経済部商工観光課

⇒背割り堤は四季折々の景色が楽しめる場所です。
以前には年2回発行しております観光PR紙の秋号で紅く色づく背割り堤の写真を掲載し紹介しました。また、現在改定を行っております「八幡まるごと観光マップ」では背割り堤の自然を紹介しPRする事しております。観光協会では毎年発表されている紅葉情報に今年から背割り堤の情報も加えられPRされたところでございます。背割り堤の魅力をより発信するため背割り堤をメインとした観光パンフレットの作成を検討してまいります。

*** サービスセンターの機能**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒施設の利用案内に加え、水洗トイレ、物販、自然や歴史の体験学習・防災情報提供スペース、市民活動を披露できるステージ等の設置が計画されております。
また災害発生時には陸上、水上、航空の災害対策拠点の1つとして活用できるものと考えてます。
「淀川河川公園上流域協議会」の検討も進められており八幡市もその協議会のメンバーとして参加しております。また、地元区長も協議会のメンバーとして参加頂いておりますので地元からの意見を反映していただく機会もございます。

*** 三川合流部周辺の設備と整備**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒平成24年11月6日に淀川河川事務所が主催した島本・橋本の渡し復活に向けた実証実験が実施され、船運復活に向けての課題整理を行うなど検討が加えられているところでございます。
また、サービスセンターに水洗トイレの設置が予定されています。

*** 背割り堤を人と人との絆を深める場所に。**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒背割り堤の持つ雄大な自然や歴史、また現在検討中のサービスセンターを利活用し様々な催しの開催など、国土交通省や京都府と意見を交わし1年を通して賑わいのある交流の場になるようにしてまいりたいと考えております。

*** 淀川河川事務所との関係、活用**

まちづくり推進部まちづくり推進課

⇒平成24年11月11日には「淀川三川合流域サイクリングツアー」が開催されました。
これらイベントの参加者に対してアンケート調査が行われており、参加者の意見を周辺設備や観光復興の参考にされると伺っております。

見たくなる^まち八幡
来たくなる^まち八幡
住みたくなる^まち八幡！

観光の取り組み 【再質問・要望】

【再質問】

背割り堤については、背割り堤ほど桜の美しい堤防は京都府のどこにもないと思います。春の桜のシーズンだけではなく、年間を通して広報活動をしていただき、是非とも観光資源としてもっと力を入れてほしいと思います。

- ・リーディングプロジェクトにおける三川合流部周辺の広域集客交流拠点の整備促進のイメージを教えてください。

【再質問】

観光の取り組みについては背割り堤の桜まつりは約20万人の観光客が来られています。春の「背割り堤」の他にも八幡市には石清水八幡宮をはじめ、松花堂、流れ橋、善法律寺、正法寺、高良神社、飛行神社・たいこ橋など、観光スポットが豊富に存在しています。せっかく20万人の観光客が八幡に来ているのに、市内の他の観光施設に行かないというのはもったいないと思います。

- ・桜まつりの20万人の観光客を誘導することが大事だと考えますが市の考えをお聞かせ下さい。

【要望】

防災・減災の取り組みについては、8月14日の豪雨災害もあり、いつ起こるかかわからないので防災・減災について積極的な予算編成をしていただきますようによろしくお願い致します。

【再質問】

避難訓練については、自治組織や自主防災組織など市民の方と連携し、また、消防本部とも連携しながら市民の安全な避難行動の啓発を図っていただきたいと思います。

避難訓練も大事ですが次に避難された後、水道、電気が無いなどの問題や、避難所へ毛布や食料を届けたり、名簿作成や情報伝達など多々あります。

要援護者の方には支援班を設置しますが、職員だけでは全部対応できないと思います。

- ・避難場所でスムーズな運営をしていくために、避難場所での運営訓練は必要だと思われ
ますがどうでしょうか？

【再質問】

災害時要援護者の把握については八幡市災害時要支援者支援対策事業に取り組んでおられますが、12月3日現在で災害時要援護者台帳登録者数は、528名、その内、避難支援者が確保されているのが3割であります。

最終的には4,000人の台帳登録を予定しており1名につき2名の避難支援者を確保するとなると8,000人の避難支援者を確保する事になります。確保の見通しとしては非常に厳しい状態ですが必要な市民に登録してもらうには制度の周知が必要です。市民に一番近い自治会の理解がなければ制度は始まらないと考えます。

- ・自治会への周知は今後どのようにされていくのか、お聞かせ下さい。

再質問 答弁

* 三川合流部周辺の広域集客交流拠点の整備促進イメージについて

⇒ 三川合流部周辺の広域集客拠点整備促進のイメージにつきましては、さくらまつりや七夕まつり、さらには船運など集客力の高いイベントの実施、また、サービスセンターに代表される施設などの整備について国土交通省と協議を行い、時期を限定することなく人々が集い、にぎわう地域となるよう目指してまいりたいと考えております。

* 桜まつりの20万人の観光客を誘導することについて。

⇒ これまで桜まつりの会場で、市内の観光施設をPRするため、観光マップ等を配布しておりました。

しかし、桜まつりに来られた方を、他の観光施設へ誘導するには観光サイン等が必要であることから今年度、駅前周辺に設置をすることにしております。

また、観光協会では、気軽に行ける駅周辺の観光マップを作成されると伺っております。

* 避難所での運営訓練

⇒ 体育館を避難所とした場合、通路の確保、避難人数の把握、名簿の作成、情報の共有等、初動の段階で行う必要があります。

そのため、本年後期から出前講座などで避難所運営ゲームを活用とした図上訓練を実施致します。

* 避難支援者確保の自治会への周知

⇒ 災害時、要援護者支援対策の取り組みは現在、自治会や民生児童委員協議会などの関係団体の協力をいただきながら進めております。

今後とも市と自治会をはじめとする関係団体との連携が十分必要であると考えておまして、関係団体につきましては、事業を実施する前段で制度の周知を図るために制度内容や依頼事項の説明を行い、事業に協力していただいたところであります。

また、各地域の自治会の要望により、地域に出向き、詳細にわたる打ち合わせにより制度の周知を図るとともに地域の対象者の掘り起こしを依頼し、登録者の増加や避難支援者の確保に努めてまいりたいと考えております。

市民の生命・財産を守る
地域のふれあいや支え合い
「安心・安全」の確保

防災・減災の取り組み

2つ目の大きな柱は、防災、減災に関する取り組みについてお伺いいたします。

平成25年度予算編成方針の重点項目1に防災・減災に関する取り組みについて、自然災害の脅威から市民の生命、財産を守るために「安心・安全」のさらなる確保に努めより効果的な施策を構築することが挙げられています。

防災については耐震などの**ハード対策**と、避難する仕組みの**ソフト対策**があると思います。

今まで防災の質問もしていますが私としては災害時に自力で避難することが困難であり、地域からの支援を必要とする住民が安全に避難できるよう、地域における避難支援活動及び災害に備えた協力体制づくりを推進することが、今一番重要でないかと思います。

災害時要援護者登録制度をよりよい制度にしていくことが緊急の課題だと思います。

災害時要援護者については昨年度の東北大震災以来、さらに関心が高まってきています。

大震災の後、災害時の要援護者の避難がどうだったかという全国的な調査結果も出ているようですが災害は、その地域によって対応も違い、住んでる人の構成によってどう対応していくか色々あるかと思います。

防災は、行政に任せていれば安心だと思われがちですが、阪神大震災や東日本大震災を経験して行政には限界があることがわかりました。

自治会や地域の方に我々が何とかしなあかんという気持ちを持って立ちあがってもらわなければいけない。地域のふれあいや支えあいの中で、地域力を高めてもらうしかないと思います。

そこでお伺いいたします。

【質問】

・現段階で防災・減災に関する取り組みについて具体的に考えるところがあれば教えてください。

・大規模な水害時の避難訓練を地域と連携する必要があると考えますがどのようにお考えですか？

・災害時の一般避難場所における要援護者の把握についてどのようにお考えですか？

答弁

* 防災・減災に関する具体的な取り組みについて

⇒ **ソフト対策**としては、本年度に同報系 防災行政無線^{こきよく}子局31局を36局に整備しております。

今後は、運用の充実を図ってまいります。

また、土砂災害警戒特別区域内の家庭及び、自治組織の代表者に防災行政無線の個別受信機を配布する予定でございます。

ソフト対策として実施しております、市民への避難等の情報を伝える方法は、テレビ・ラジオ・インターネット・携帯電話・同報系防災行政無線・個別受信機の設置となり、災害時の情報を少しでも多くの手段で伝達できることとなりますことから、災害時の被害を少しでも軽減させたいと考えております。

また、今年10月から防災基金を活用し、震災時の避難のため身近な生活道路も含めた避難路の安全確保のため、ブロック塀など撤去に関する補助を継続し減災対策に努めています。

さらに、災害時広域ネットワーク加盟市町で実施されます総合防災訓練に本市の災害対応に係る職員を積極的に派遣し、災害対応に係る職員の資質向上を図ることも減災に繋げてまいります。

⇒ **ハード対策**と致しましては、今年8月の京都府南部豪雨で溢水をいたしました河川水路につきまして、今年度で対策検討を行っております。旧大谷川・軸川に引き続き他の河川につきましても来年度に対策の検討を専門業者に委託する予定をしております。その後、検討致しました対策につきまして、事業化を図ってまいりたいと考えております。

また、来年度におきまして、側溝等については特別に点検を行ったうえで、必要に応じて浚渫等を行ってまいりたいと考えております。

また、急傾斜地対策につきましては、来年度にまず現況調査を行ってまいりたいと考えております。

* 地域と連携した避難訓練について

⇒ 避難訓練につきましては、引き続き、各地域の自治組織並びに自主防災組織など、市民の方と連携し防災訓練、防災研修等を通じて市民の安全な避難行動の啓発を消防本部と更に連携を図ってまいります。

* 一般避難所における要援護者の把握について

⇒ 現在すすめております災害時要援護者支援対策によります登録者以外の要援護者につきましても、市が一般避難所に要援護者用の窓口として要援護者からの相談対応、情報提供と支援物資の提供等を行う災害時要援護者支援班を設置し、登録をされている要援護者の方の支援はもちろんのこと登録されていない方についてもそこで把握をいたしまして必要な支援を行うことといたしております。

次世代の育成

3つ目の大きな柱は、次世代の育成に関する取り組みについて、お伺いいたします。平成25年度予算編成方針の重点項目2に次世代の育成に関する取り組みについて、

- ・時代を担う子ども達の健やかな成長は、すべての人の願いである。
- ・安心して子ども達が育ち、学べる環境整備をすること。が、挙げられています。

「京都府一番の学力」を目指す公約の実現に向け、6月の補正予算で学習支援員やスクールソーシャルワーカーの配置、中学1年生の英検全員受験など教育の成果を高める活動が展開されてきました。学校現場では個別に対応しなければならない児童の増加や発達障害のある子ども達への適切な指導・支援が学校運営上の大きな課題であると聞いておりました。

今回の支援員に配置によって、個別指導や複数の指導者による授業、少人数授業など各学校での取り組みが充実し、子ども達が落ち着いて学習に向かうことが出来るといった成果が聞こえております。学校からの要望や意見を踏まえた施策を積極的に取り入れていただいていると評価するものです。

人は人と関わることで人となっていくと言われます。他市では類を見ない多くの支援員を配置したことで子ども達一人一人への関わりも増加し、学力だけではなく人格形成の面からも大変有効な取り組みであると考えています。ここ数年、市の教育への熱い思いが具体化してきていると感じているところです。この思いをより充実させる為にいくつかお伺いしたいと思っております。

【質問】

- ・今回の学習支援によって、どのような成果があらわれているのか。教えてください。
また、学力向上のための平成25年度予算の重点施策について教えてください。
- ・小学校で英語教育を重点化している自治体もあるようですが本市ではどうですか？
また、現在の小学校英語活動の支援はどのように考えていますか？
- ・小中一貫教育の進捗状況について教えてください。
- ・子ども達のふるさと意識を高めるためにどのような取り組みをしていますか？

*** 学習支援員の成果と施策について**

⇒ **学習支援員**は、より分かりやすい授業を展開するため、今まで出来なかった学級学年を分割したより少人数での授業の実施、複数指導による授業内での個別指導、また、支援を必要とする児童への保護者の了承を得て別室での個別指導などを実施しております。一番の成果は、このように各小中学校が、学習支援員を活用して児童生徒の実態や学校の課題にあわせて様々な学力向上の取り組みを展開していることであると考えています。

予算の教育分野の重点施策でございますが、ここ数年で教材備品の整備の充実や修繕費の増額、図書館司書、特別支援教育支援員、学習支援員の配置などに取り組んでまいりました。来年度も学校現場の要望に応え環境整備の充実と人的な支援体制の充実に取り組んでまいります。また、学習環境として、もっとも大切と考えております教員についても、授業力の向上に向けて積極的な研修推進や今年度旧東小に整備いたします研修室の有効活用により、資質の向上に努めてまいりたいと考えております。

*** 小学校の英語教育について**

⇒ 本市では、国の小学校の外国語活動の実施より先駆けて、平成16年度より市内全小学校において英語体験活動を推進し、国際理解教育の充実と、中学校への円滑な接続を図ることを目的とし「総合的な学習の時間」における英語体験活動を実施しております。実体験活動を含んだ授業を行うため外国人講師の派遣を市内全小学校へ実施してきました。派遣の時間は年々増加させ平成19年度から全校に一日滞在型の派遣形態へと転換してまいりました。学級経営の上からも小学校の学級担任による指導も重要であるとの考えからすべての授業に外国人講師を派遣していない工夫でございます。今後も児童のコミュニケーション能力の素地を養うために必要な支援を行ってまいりたいと考えております。

*** 小中一貫の進捗状況について**

⇒ 今年度より立ち上げました八幡市一貫教育推進協議会に保幼小連携教育部、研究部、一貫教育部の3つの部会を設置し、活動を進めております。**保幼小連携教育部**では、就学前から小学校へなめらかな接続についてのカリキュラム研究を。**研究部**では、教科や領域において小中一貫して取り組む課題や八幡市独自の検定などについての研究に取り組んでおります。**一貫教育部**では、各中学校キャンパス内での取り組みについての交流や今後の活動計画等について協議しています。また、中学校キャンパスにおいては、それぞれの実態に応じて小中学校の教職員からなる組織を作り、合同部会、合同研修会の開催や小中お互いの授業参観を見にいたり、中学校教員による小学校への連携授業を行ったりしています。児童生徒の交流活動としては、部活動体験や学校行事での交流などに取り組んでおります。

*** 子ども達のふるさと意識を高める取り組みについて**

⇒ 学習指導要綱に示されている郷土への理解や伝統、文化、郷土を愛する態度などの育成の為に今年度シルバー人材センターの「やわたものしり博士検定」と連携し、検定を行います。今年度は試行として来年1月から希望の学校の4年生で授業を3回行い、授業内容から出題する「こどもやわたものしり博士検定」に挑戦してもらうこととしています。

次世代の育成 【再質問・要望・答弁】

【再質問】

次世代の育成に関する取り組みについて

学習支援員の成果についてはよりきめ細かな指導が行われているように感じました。

来年度の重点施策ですが、私も保護者の方から学校が綺麗になったね、との声をよく伺います。

耐震設備も完了し、中学校の太陽光発電やエアコン設置などハード面では大きく改善されています。

ここ数年の夏の状況から考えると小学校のエアコン設置は必要であると考えます。

・教育委員会としては、小学校のエアコン設置についてどのような考えでしょうか？

答弁

⇒ ここ数年の記録的な猛暑が続いている事、学習環境の充実の観点からも対応が必要であると認識しております。出来るだけ環境に負荷を与えず、省エネルギーなエアコンについて検討し出来るだけ早期に設置できる方向で計画的に進めていきたいと考えております。

【要望】

子ども達のふるさと意識を高める取り組みについて

「こども・やわた・ものしり博士検定」は、子ども達がやわたに誇りをもってもらい取り組みだと思えます。

市民が直接子ども達に語りかけることでよりふるさと意識も高まります。

八幡のすばらしさが、子ども達にわかってもらえるように、子どもの目線で取り組んでいただきたいと思えます。

ぜひ、来年度以降にすべての小学校で継続的に実施していただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。